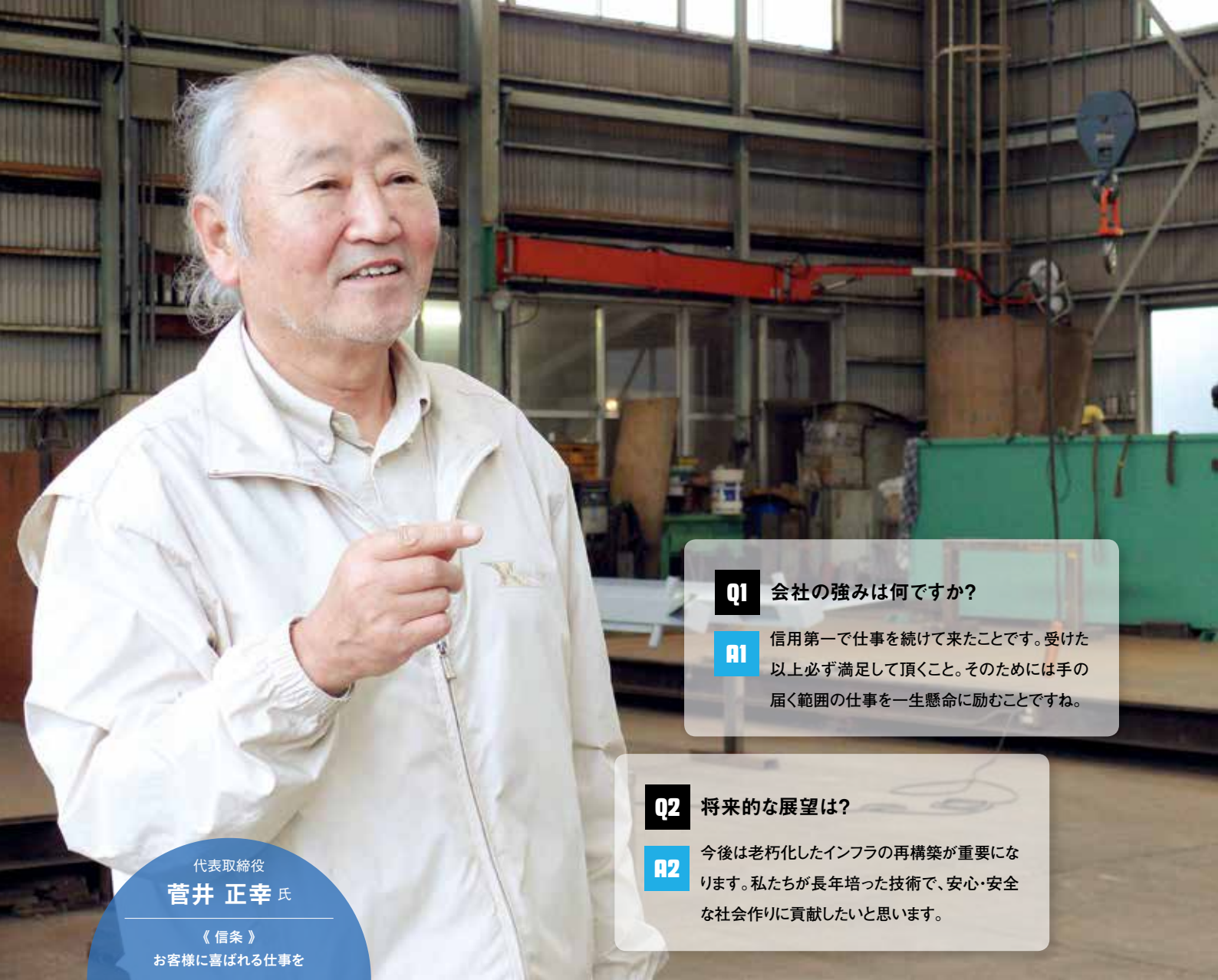




代表取締役
菅井 正幸 氏
《 信条 》
お客様に喜ばれる仕事を

Q1 会社の強みは何ですか？

A1 信用第一で仕事を続けて来たことです。受けた以上必ず満足して頂くこと。そのためには手の届く範囲の仕事を一生懸命に励むことです。

Q2 将来的な展望は？

A2 今後は老朽化したインフラの再構築が重要になります。私たちが長年培った技術で、安心・安全な社会作りに貢献したいと思っています。



従来は材料の寸法入れから加工、仕上げ、製品仕様書との照合に2〜3名で6日程度必要だったが、YS工法により1名体制で1〜2日での作業完了となっている。また、環境への負荷低減も実現したことで、高精度・短納期・エコといった当初の課題をすべてクリアしている。

安定受注を目指すとともに設備投資による業務拡大を

精度の高い製品の短納期化を実現した同社だが、沿岸部での需要増大によって対処しきれない現状もでてきた。

「納期を守るために一部を外部にお願いする事態にもなっています」と菅井氏。YS工法を利用した他製品への進出も検討中だが、まずは

 **株式会社矢本製作所**
代表取締役 / 菅井 正幸
所在地 / 宮城県東松島市大曲字堰の内南30-18
T E L / 0225-82-2281

事業テーマ
【28年度補正】
高精度、長寿命、低コスト化を実現する
鋼矢板「YS工法」の開発

安定した受注を獲得した上でさらなる設備投資によって生産能力を強化し、事業拡大を目指したいと話す。



FILE.25

鋼板加工で地域の安心安全に貢献

積み重ねた技術と信頼で幅広い製造設備に対応

昭和42年（1967年）創業の株式会社矢本製作所。鉄やステンレスなどの鋼板加工を主力の業務とし、火力・原子力発電所や各製造工場等の設備機器類、配管・ボイラー機器等の製作・据え付け、トンネル掘削機の製作、土止用鋼矢板製作など幅広い業務に対応している。東日本大震災では、海岸部に近い工場が大きな被害を受けた。

「4カ月の操業停止になり、事業が軌道に乗るまで1年近く掛かりました。その後の復興需要で息を吹き返した感じがですね」と代表取締役の菅井正幸氏は当時を振り返る。

震災復興需要の増大と高度化するニーズに対応

現在、同社の主力製品となつて

使用する土止用の鋼矢板だ。

東日本大震災以後、沿岸部各地での防潮堤の整備が推進されたことにより、土止用鋼矢板の大きな需要が発生していた。しかし、その一方で従来の加工設備では時間と人手が掛かり大きな負担も生じていた。

また、近年の安全性強化と長寿命化のニーズにより、高硬度材の加工技術の向上が求められつつある。さらに従来の穴開け加工は切削油を給油しながらの作業であり、付



着した油を拭き取る布が産業廃棄物となる問題もあった。

独自のYS工法確立で生産性の大幅向上を実現

課題解決のために同社が導入したのが、自動パンチ加工機である。オリジナル仕様にカスタムした自動パンチ加工機によって新たに「YS工法」を開発。これまでの加工作業では作業員の練度が影響していたが、YS工法の開発によって高精度で安定した加工が可能となった。

